

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位	学年	1学年
学科	全学科	コース		教科書	高校数学Ⅰ（実教出版）		
副教材	「高校数学Ⅰ専用　スタディノート」（実教出版）						
学習目標	数と式、2次関数、三角比、集合と論証、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさが分かるようにする。						

		学習内容	学習活動・学習のねらい	評価の観点			備考
				知 技	思 判 表	主 体	
1 学 期	4 月	1 章 数と式 1 文字式を使った式のきまり	・ 式に関する用語の意味を理解し、整式を整理することができる。	◎		○	・ 中学校の内容を復習しながら授業を進める。
		2 整式	・ 指数法則や乗法公式を用いて整式の計算を能率よく行うとともに、因数分解の公式を利用することができる。	◎	○	○	
	5 月	3 整式の加法・減法	・ 数の分類を理解し、分母の有理化や平方根を含む式の計算をすることができる。		◎	○	
		4 整式の乗法	・ 不等式の意味と性質を正しく理解し、数量の間の大小関係を不等式で表す。また、1 次不等式を解くことができる。	◎		○	
		5 乗法公式による展開	・ 1 次不等式を利用して文章題を解決する。		○	◎	
		6 因数分解					
	6 月	7 平方根とその計算					
		8 実数					
		9 1 次方程式					
		10 不等式					
		11 不等式の性質					
	7 月	12 1 次不等式					
		13 連立不等式					
		14 不等式の応用					
2 学 期	8 月	2 章 2 次関数 1 1 次関数とそのグラフ	・ 2 次方程式について理解し、2 次方程式を解くことができる。	◎		○	・ 2 章終了後、4 章、5 章の内容を進める。
		2 2 次関数とそのグラフ	・ 関数の概念を基本的な用語とともに確認し、標準形に変形し、そのグラフを利用することができる。		◎	○	
	9 月	3 2 次関数の最大値・最小値	・ グラフを利用して 2 次関数の最大値・最小値を求める。また、2 次不等式を解くことができる。		◎	○	
		4 2 次関数のグラフと 2 次方程式					
		5 2 次関数のグラフと 2 次不等式					
	10 月	4 章 集合と論証 1 集合と要素 2 命題	・ 集合の表し方、用語、記号を学び、集合の考え方を理解する。	◎		○	
		3 いろいろな証明法	・ 命題の真偽と反例を考える。また、条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知ることができる。		◎	○	
		5 章 データの分析 1 統計とグラフ	・ 集めたデータをどう整理し、見やすくしていくかを度数分布、ヒストグラムなどの手法を通して理解する。また階級概念、相対度数の考えの利点を理解することができる。	◎		○	
		2 度数分布表とヒストグラム	・ 代表値、標準偏差について、計算方法とその特徴、用途を理解することができる。		◎	○	
		3 代表値					
		4 データの散らばり					
	12 月	5 外れ値					
		6 相関関係					
		7 仮説検定の考え					
3 学 期	1 月	3 章 三角比 1 三角形	・ 三角比としての正接・正弦・余弦の意味を理解し、 30° 、 45° 、 60° の三角比の値を求め、具体的な問題に活用することができる。	◎		○	・ 5 章終了後、3 章の内容を進める。
		2 三角比	・ 与えられた辺の長さや角の大きさから、他の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	○	◎	○	
		3 三角比の利用	・ 三角比の相互関係を理解し活用する。	○	◎	○	
	2 月	4 三角比の相互関係	・ 0° 、 90° 、 180° まで拡張した三角比の意味を理解することができる。	○	◎	○	
		5 三角比の拡張	・ 図形の求積や計量に面積公式や正弦・余弦定理を活用することができる。	○	◎	○	
		6 三角形の面積	・ 学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどした課題に取り組む。	○	○	◎	
		7 正弦定理					
		8 余弦定理					
	3 月	9 正弦定理と余弦定理の利用					
		課題学習					

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	・ 定期考査に加え、課題やノート提出、小テストの成績などを総合的に評価する。 ・ 平常の取組（授業態度、意欲等）についても評価する。
------	---